

～人物教育通信～

「明光義塾は、あなたの人生の応援団長です」

「人材教育」とは、能力の優れた人間を育てる事。

「人物教育」とは、能力と人間性において優れた人物を育てる事。

「人物教育」の目的は、人間を人間らしい心を持った人間に育てる事。

発行/サクセスリンク株式会社

個別指導明光義塾

<http://www.meiko-success.com/>

2016 (平成28) 年 7月1日 No. 17

サクセスリンク(株)代表取締役社長挨拶



まずはこのたびの熊本地震で、被災された方々へ心からのお見舞いを申し上げます。また、お亡くなりになられた方々に哀悼の意を表すると共に、未だに被災地での避難生活に苦しんでおられる方々へのお見舞いと一日も早い復旧と復興を祈念申し上げます。私たちは、この震災を通じて「今、自分たちにできること！自分たちだからできること！」とは何なのか？と、常に問いを持ちながら行動実践を続けて参ります。

このたびの熊本地震で私自身「あたりまえについて」とても考えさせられました。生きていること…。家族が一緒であること…。お水があること…。電気・ガスがあること…。安全なお家があること…。温かい食事ができること…。これまで「あたりまえであったこと」が一瞬でも無くなったことによって「あたりまえの価値」を強く感じる事ができました。この熊本地震が私たちに教えてくれたものは、本当に大きな意味のあるものでした。

私が25年間学んできた感性論哲学の芳村思風先生は、今回の熊本地震の意味について「震災とは何のために起こるのか？どう受け止めればいいのか？」という問いに対して「それは自然界からのメッセージとして“今、時代が求めているキーワード【絆】

【つながり】【やさしさ】【思いやり】を人間に気付かせるために起こるのです”という事でした。私自身も今回の熊本地震で、まさに「人と人とのつながり」や「絆」の大切さ、「人のやさしさ」や「思いやり」等、たくさんの気づきを与えて頂きました。今回の熊本地震での様々な経験を子供たちと一緒に共有し、最大限に活かしながら成長していきます。そして、私たちは「学習という機会を通じて、社会に役立つ人物教育を目指しています。」ので、今回の熊本地震をどう受け止めて、今後どのように活かしていくのか？という問いを持ちながら頑張っていきます。

5月24日には健軍教室、6月1日には花立教室（前益城教室）、新屋敷第2教室、阿蘇内牧教室を移転リニューアルオープンいたしました。一日でも早く地域の子供たちの学習支援を行いたい！という強い想いを、こんなにも早く実現できたことに、心から感謝申し上げます。



復興支援のため全教室にのぼりを設置

サクセスリンク株式会社 代表取締役社長 山田浩之

Vol.17 降りかかる苦難の中に使命あり

使命は、出会いや出来事の中にある。

命の痛みを伴うような出来事・経験は、そこに自分のやるべきこと、使命があるということを見せてくれています。自分に起こることは、すべて自分が成長するために、必要なことなのです。

乗り越えられない問題はない。

今ここを真剣に生きることで、未来だけでなく、過去も変わってしまう。

「あんなことがあったから、こんな風になってしまった」ではなく、「あんなことがあったからこそ、今こうなれた」と思える日が必ず来る。後になって、苦しかったことが、人生の転機になったと気づくことができるのです。

どん底の時でしか気がつかないことや出会えない人や見ることができないことがある。

失敗したおかげで何が大切なのかを知ることができる。

苦しんだからこそ養われる精神力がある。
本物の実力ができる。人間の深さができる。
今を真剣に生きれば、未来だけではなく、過去も変えられるのです。

体験は、肉体を通して学んだ事実であり、経験は体験から学んだ知恵になる。

自分が人生で経験した困難・苦難の体験こそ、その人にしかできない使命を教えてくれる現象です。それをトラウマとして捉えている限り、自分の人生の目的はわからないのです。

「使命とは、この命の使いどころ」

「使命とは、この命何のために使うか」

「成功するためには、苦勞しなければいけない」と思っていると本当に苦勞や問題がやってくる。

自分が思っている通りになる。

そこに自分の天分素質があるなら、時間も忘れ、食事も忘れるほど、打ち込める。

そんな時は、どんな出来事も苦勞や問題とも思わない。

一所懸命にやっているけど、必死にやっているか。必死になったとき、道は開ける。

今を必死に生きることで、過去も、未来も変わってくる。大切なことは、『今、ここ』。

今ここを精一杯生きること。人間は、顔がみんな違う。人間一人ひとりに必ず氏名があるように、使命がある。問題や悩みは、自ら求めるものではなく、母なる宇宙の計らいによって与えられたもの。

乗り越えられない問題はない

「感性論哲学」
芳村思風先生の
一語一会

熊本地震から2ヶ月…明光義塾での取り組み

去る4月14日、そして4月16日。これまでに経験したことのない熊本震災が起きました。震度7の地震が2回、そして今も続いている余震。たくさんの方々の命がなくなり、そして今でも避難生活をしたり、余震におびえたりする生活が続いています。明光義塾でも、4教室は教室の移転を余儀なくされました。この熊本震災を受け、全国からはたくさんの方々の支援物資が届き、熊本で不便な生活を強いられている皆さんへと、たくさんの方々の温かい支援をいただきました。

教室に届いた沢山の支援物資

私たちサクセスリンク(株)の明光義塾では、その支援物資を、各地域の拠点として皆様へ届ける活動として、熊本地震後1週間に渡ってさせていただきました。教室にたくさんの方々の物資。その物資が届くということだけでもありがたいことです。普段の教室の中は、子供たちだけで溢れているのですが、この期間は、普段はなかなか教室にはいらっしやらない地域の方々にもたくさん触れ合うことができました。

その活動の中で、教室スタッフだけではなく、その時間学校に行くことができず、不安な気持ちで過ごしている子供たちも、一緒にボランティア活動としてお手伝いしてくれる姿もたくさんみることができました。何も言わずとも、物資を取りにいられた方々に、何が困りなのか、何を必要としていらっしやるのかを一生懸命に聞き、地域の方々の声にこたえようとしている子供たちの姿に、私たちスタッフにも、何度も感動を与えてくれました。

避難生活をしているにもかかわらず、地域の方々役に立とうとする姿に心打たれる場面がたくさんありました。



また、支援物資の中には、「がんばってください」「がんばれ!」というメッセージが書いてあるものも多く、全国の多くの方々に応援していただいていることを感じることもできました。同じ明光義塾の仲間たちからも温かいメッセージがたくさん届きました。東北から、24時間かけて物資や色紙を持ってくださった明光義塾のオーナー様や教室長の仲間も。言葉にならないほど、感謝の気持ちでいっぱいになりました。

玉名教室からのメッセージ & 支援物資を送ってくださった方々のメッセージ



ゴールデンウィークには、五福小学校で子供たち向けに学習支援のボランティアを行いました。ぬり絵やパズル、折り紙や粘土を始めとした遊び感覚で始められるものから、字の練習や速読、脳力トレーニングなどを含め、たくさんの子供たちが参加してくれて、たくさんの方々の笑顔を見ることが出来ました。連休中にもかかわらずアルバイトの講師もボランティアとして参加してくれました。

「何かしたい!」という思いが溢れての行動に、感謝です。



五福小学校でのボランティア

この熊本地震を通して、たくさんの方々の喜びがあり、人の温かさをたくさん感じさせていただきました。起こってしまった熊本地震をなかったことにもできませんし、時間を戻すこともできません。だからこそ、この経験をこれからに活かさなければなりませんし、助けてくださった方々に「恩返し」をしていくこと、そしてその恩をもっとたくさんの方に贈っていく「恩贈り」をしていきたいと、私たちスタッフ一同感じております。



まだまだ熊本地震の影響は続いています。サクセスリンク(株)、そして明光義塾としても、これから何ができるか、地域の皆様、そして子供たちの輝く未来を創るために、できる限りの支援をしていく所存です。ぜひ、地域の皆様も、お気軽に教室にお立ち寄りいただき、お困りのこと、ご要望など含めてご意見をお聞かせいただけたらと思います。この熊本という地で、教育を通して少しでも社会貢献をすることが私たちの使命です。これからも、地域の皆様、そして子供たちのために尽力してまいりますので、今後ともよろしくお願いいたします。



問題は必ず乗り越えられる！合格体験記

熊本県立熊本高校合格 新屋敷教室 赤木陽名さん

私は今、熊本高校の生徒として生活しています。私が今のこの生活を手に入れるまでの道のりを紹介させていただきます。

私は一年生の時から熊本高校を目指していました。といっても、その理由は当時三年生だった姉が受験するからという非常に自主性に欠けたものでした。その上、当時の私は、成績も厳しい状態で、テストの結果に一喜一憂しては、とくに復習することもなく日々を過ごしていました。当然成績は落ちて行き、それに耐えかねた母によって一年生の時の冬期講習から、明光義塾に入ることになりました。明光義塾の勉強法は私に合っていたようで、いつも楽しく勉強していました。成果は時間とともに表れ、気がつけば私もとうとう受験生になっていました。私は受験勉強にあたって自分に二つの事を課しました。それは「暗記特訓で毎回満点を取る」「塾の宿題を出された以上にしておくこと」の二つです。もちろん大変でしたが、そもそも目標とは今の自分にできることよりも少し上に立てるものなので、満点取れなかったときは家でもう一度解きなおい、宿題を出された量しか出来なかったときは、次の授業時にはもっと多くの量を提出しました。逆に言うと、これ以上の事は今までと特に変えませんでした。私は少しずつ成績を上げ、夏には熊本高校を狙えるところまで来ました。しかし、同時に自分は本当に熊本高校に行きたいのか悩むようにもなりました。そこで、オープンスクールを利用して様々な高校を見学しました。最後に熊本高校を見に行き、学



校に足を踏み入れると、悩みは吹き飛んで行きました。何を見てもキラキラ輝いていて、私はここに行きたいのだと強く感じました。自分の意志で決めた高校です。絶対に行きたいと強く思うようになりました。

それは良いことだけをもたらしたわけではありません。合格への想いが募るほど点数ばかりが目に入り、悪い点数を取ってしまうと精神的に不安定になることが増えました。間違えることへの恐怖から、テスト中、手が震えるようになりました。その状態から抜け出すために、私は自分の勉強スタイルを創りました。学校から直接塾に行き勉強し、Gコマ前には家に帰るといふものです。勉強は当然しつつも、リラックスできる時間をひねり出しました。いつもそばに親友や塾の先生方がいてくれたことも大きな支えでした。時間はかかりましたが、私は徐々に安定した心を取り戻しました。もちろん不安はあったけれど、自分が決めたことを貫きながら受験を迎えることにしました。

受験本番、私は講師の先生方や友達や家族が心をこめて教えてくれたことが今の私を助けてくれていると感じ、とてつもない安心感に包まれていました。支えてくれた人たちに感謝の気持ちを込めて、自分にできることを精一杯出し切りました。

合格発表の瞬間、私は自分の番号を見つけました。努力と周りの支えが一つの形として現れたその数字は今まで見たことが無いほど輝いていました。

最後に、今年の受験生は地震に見舞われたことで、困難な境遇に立たされていることかと思えます。しかし残念ながら、受験という場では環境を言い訳にすることはできません。どうかあきらめずに今自分が出来ることを探してみてください。みなさんの健闘を祈っています。

熊本県立第一高等学校 植木教室 緒方玲奈さん

私が明光義塾に入塾したのは、中一の夏期講習の時からでした。その頃は将来の夢もなく、行きたい高校も全く考えていませんでした。しかし、大学には進学したいと思っており、中三の体験入学で絶対に行きたいと思う進学校を決めることが出来ました。私にとってはレベルが少し高い高校だったので、中三の夏期講習、冬期講習は特に勉強量も増え、頑張った時期でした。習慣カリキュラムを毎週作り、一週間の計画を立てることで、やるべきことを忘れずに行うことが出来ました。計画を立て実行することが苦手だった私にとっては大変なことでしたが、その大切さを知ることが出来ました。講習や通常では、自分の苦手な理科・社会はPC授業で受講しました。理科・社会が受験の得点源になるという話を聞いて、私自身も強化したいと思っていたので、Vテキストやベシックウィングの講座で補強することが出来ました。特に苦手な単元は、導入が分かりやすい授業をタブレットで受講し、得点を上げて行くことが出来ました。

三学期に入って、志望校に合格できるのかと不安になったり、自分の力で解けない問題が増えてきたりして落ち込んだり、悔しくて涙が出てくることも多々あり、ポロポロになっていた時期がありました。でも、それに気づいてくれた友達や明光義塾の教室長、講師の先生方、そして家族が私の話を

聞いてくれたり、励ましてくれました。その時、私の周りには沢山の支えてくれる人たちがいるということに気が付き、頑張ろうと思うことが出来ました。私が志望校に合格することが出来たのは、このように私を支えてくれた人たちのおかげだと思います。合格した時は、自分に自信を持つことができ、応援してくれたたくさんの人への感謝の気持ちがあふれてとてもうれしかったです。

私には、高校で自分がなりたい職業を見つけるという目標があります。以前は夢が無いということに不安や焦りを持っていましたが、そんなに急ぐ必要はないと思います。今、夢が無いという人は沢山いると思います。しかし、それを悪いこととは思わず、いろいろなことを学ぶチャンスだと思っいろいろなことに挑戦して様々な経験を積んでほしいと思います。そして、自分がやると決めたことは最後まであきらめないでほしいです。辛いことや苦しいことから逃げなければ、幸せが訪れると思うので、辛い時や苦しい時は、周りの人に支えてもらいながら乗り越えて行ってください。



ICT教育の実践による成長事例のご紹介

～教育のICT化に向けサクセスリンクが取り組んでいること～

日本の教育は、これまで10年程度のスパンで大きな改革を行ってきました。そして、この2016年から2020年にかけて、文部科学省を中心に、いよいよ「教育大改革」がスタートします。

現在の社会情勢も、少子高齢化・人口減少・経済不況と様々な事象が一層加速しています。

そしてパソコン・スマートフォンの普及により、今や「手を伸ばせば誰もが知識や情報を手に入れられる時代」となりました。知識が重要とされた時代から、今後は「知識をどう活かすか」「得た知識で何を生み出すか」「いかに解決できるか」といった「生きる力(=自立学習)」が重要なものとなってきます。

小中学校においても、生徒へのタブレット配布が開始され、映像による学校・家庭での学習が一気に加速し、勉強のあり方が今までと大きく変化していきます。

明光義塾では「自立学習」という教育理念に基づき、高能率学習法理論に裏付けされた「勉強の仕方」を指導する塾として、数十年この「生きる力」の育成に力を注いできました。本格的にスタートする教育大改革に対応すべく、約2年前からタブレットによる映像授業を取り入れてきました。この映像授業も「生きる力」を引き出す授業として、個別カリキュラムにて取り入れ、定期テストや受験対策において大きな成果が生まれております。

なぜ、明光義塾において、映像授業でこのような成果が出ているかというと、子どもたちの自立学習力を向上させるための「映像授業」と、自尊心を高め、個別のわからない！を解決するための個別授業を併用しているためです。

今ではほとんどの学習塾で映像授業を取り入れていますが、その多くはカリキュラムの提供のみ。あとは、生徒一人だけを見て取り組む形式がほとんどです。この形式で成果を出せるのは、生徒自身が勉強に価値を感じて自立学習できる生徒に限られているのが現状です。

そこで必要となるのは「人」の介在であり、自立に導く関わりです。明光義塾では、「チューター」がその役割を果たしています。「明光義塾が最も大切にしている自立学習に向けた勉強の仕方」を徹底的に指導し、自分の力で「わかる！」という経験を積むことが可能となり、自らの力で成長していく自立学習力が身についていくのです。

この「チューター制度」を取っていることで、映像授業は今まで以上に自立学習を加速させ、今後、子供たちが時代の流れにのって成長していくことが実現出来るのです。

ICT教育で人物教育？

また、私たちは人物教育を通じて優れた「能力」だけでなく「人間力」を育てることに力を入れています。その結果として、この少子化と言われる中、10年連続で生徒数が増え、全国の明光義塾から会社・教室見学に来て頂いております。

今の学校教育では能力アップのための教育に重きが置かれています。知識の詰め込み方、問題の解き方は教えてもらえますが、「その知識をどう活用するか？人が喜ぶため・役に立つためにどう使えばいいのか？」を教えてくれる学校はそう多くありません。

だからこそ、サクセスリンク(株)が運営する明光義塾では、①学習という機会を通じて「自立学習」＝「生きる力」を身につけ、『学力や能力を育む教育』

②名前を呼んで笑顔(えがお)で存在を認める「笑顔教育」、

がんばった結果だけではなく、その努力やプロセスにも焦点を当てる「褒め教育」、そしてたくさんの感動を生みだし、共有する「感動教育」を土台に、教育マイレージを通じて、人の役に立てるような『人間力を育む教育』に力をいれています。

2050年には、今まで人が行っていた事をロボットが取って替わるようになり、インターネットの普及により今ある職業の半分が、新しい職業に変わると言われています。昔と比べ、今は便利な世の中になりました。しかし、「便利になった」という声は聞こえても「心が豊かになった」という声は聞かれません。だからこそ、明光義塾では時代の流れに合わせたICT教育で、「能力」だけではなく、「能力と人間力」の両方を高めていく「人物教育」に全力で取り組んでいき、子どもたちの自己実現を応援してまいります。

<実際の生徒の成長&成功事例>

中学2年生の時から明光義塾に通い始めてくれた生徒がいます。始めは勉強に対する自信がなく、わからない問題があると、自分で考えようとせず、すぐ先生に答え求めようとする習慣が身につけており、「わかったつもり！」で授業を終わらせていたため、学校の定期テストだけではなく、実力テストにおいても点数が伸びずに悩んでいました。

目標としている志望校の偏差値と現状の差は8。個別授業のみの受講だと、先生に依存し、関わってもらうことに満足してしまい、自立学習が身につかない可能性もあったため、特に苦手意識が強い英語のみ個別授業にし、それ以外の数学・理科・社会は映像授業に変更し、自立学習力をUPさせるためのカリキュラムでスタートしました。当初は、個別授業と比べ、すぐにわからないところを先生に聞けないことに不安を感じていましたが、その都度、担当のチューターがわからない問題があった際の教科書・解説の活用方法、ノートの取り方などを徹底的に指導していきました。そして、2ヶ月後には、なんと先生に頼らずとも自ら調べ解決する自立学習ができるように成長しました。

また、塾では予習型で進めていくことで、学校の授業と家庭学習において、自分の力で「わかる！」という状況を創ることができるようになり、大きな自信につながっていったことは、それまでとは大きな違いでした。また、映像授業を進めていく中で、どうしてもわからない問題のみを絞り込み、個別授業でフォローする流れを取り入れることで、更に自立学習のスピードが加速。そのことで、今までは「先生わからないので教えてください！」ということが多くありましたが、「先生、自分ではここは〇〇だと思いますが、他にいい方法はありますか？」という提案型の質問に変化してきました。授業では、毎回、チューターによる学習状況の確認・アドバイスや生徒ができるようになったことを承認・賞賛し、自己肯定感を高めるための面談も必ず実施しています。その際に、勉強のやり方の変化、学校・家庭・塾で出来るようになったことなど、毎回、教育マイレージに書いてもらい、その内容をもとに生徒と一緒に感動共有する時間をつくっていますが、この取り組みも生徒の自信UPに大きく繋がっていききました。

その結果、4月から9月までの6ヶ月間で偏差値が10もアップし、志望校に見事合格してくれました。

能力(自立学習力)はもちろんのこと、受験3ヶ月前からは、「教育マイレージ」に、関わる人たちへの感謝の気持ちもたくさん表現してくれるようになり、人間力も大きく成長してくれました。